

雲北陵月報

No. 403

平成31年3月11日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

平成三十年度 出雲北陵高等学校 第一〇回 卒業証書授与式

3月2日 本校体育館

春の日差しが降り注ぐ快晴の3月2日、多数のご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、第110回卒業証書授与式が挙行された。本年度は卒業生171名の代表として篠原健甫君に水谷厚志学校長より卒業証書が授与された。

式辞の中で学校長は、卒業生の様々な分野での輝かしい功績を称えるとともに、学校を出てからが本当の勉強であり、実社会を生き抜くための知識や技術、広い見識は、まだまだこれから学び、身に付けていかねばならない。今後、生涯にわたって学ぶ心を忘れず、絶えず知性を磨き、良識とキャリアを高めながら、自分の幸せを築いていって欲しい。また、いかに時代が変わろうとも、『礼節』や『公德心』『和の心』といった日本人の美徳や気概を失うことなく、それを誇りとして発揮し、社会に貢献できる人であって欲しい、と激励の言葉を贈った。



学校長式辞

続いて理事長は、人に要求するよりは自分自身に要求できる強い人になって欲しい。世界がどうなるうとみなさんが家庭を持った時には、配偶者と子供を大切に、仲のよい明るい家庭を築いてくださいと、お祝いの言葉を贈った。

卒業生を代表して福田珠希さんは、文化祭や部活動など3年間の高



答辞 (代表 福田 珠希)



卒業証書授与 (代表 篠原 健甫)

校生活の思い出を語り、大切な友人との出会いは、「小さな奇跡」であり「縁」を感じていると振り返った。また、大学受験を通して、先生方や両親の支えに感謝するとともに、友人と励まし合い夢をかなえる喜びを実感し、夢をためらいなく追い求め続けられることが何よりも幸せなことであると述べた。

全員による校歌斉唱の後、卒業生は列席者の大きな拍手に見送られながら、思い出深い学び舎をあとにした。

卒業生受賞者一覧

日本私立中学高等学校連合会会長賞

伊藤美心 (36北陵)

島根県高等学校体育連盟

(なぎなた部 優秀選手賞)

原 出穂 (35北陵)

青戸真実 (35松一)

島根県吹奏楽連盟表彰

松谷陽路 (31出)

松原ほか (34三)

當 紗也香 (35出)

吉岡未海 (35三)

島根県高等学校体育連盟

バスケットボール専門部表彰和上賞

和田守悠人 (34斐)

バスケットボール専門部表彰和上賞敢闘賞

岡 依千帆 (35北陵)

島根県高等学校野球連盟表彰

木村拓人 (35平)

島根県高等学校体育連盟功労賞

三原祈龍 (35三)

皆勤賞 (3カ年)

田和 潤 (31出)

矢野さくら (33出)

陰山瑠羽 (34斐)

原 出穂 (35北陵)

樋野真衣子 (36斐西)

特別教育活動功労賞

(団体賞)

・吹奏楽部

・合唱部

・男子バスケットボール部

・なぎなた部

(個人賞)

(合唱部)

伊藤美心 (36北陵)

(写真部)

郷原澪哉 (34出)

卒業生会入会式

時 3月1日
於 本校体育館

卒業式を翌日に控えた3月1日に、本年度卒業生17名の卒業生会（和風会）入会式が挙行された。卒業生会の高橋裕三（副会長からは「卒業しても、友との友情を大切に、相手の立場になって考え行動して欲しい」と力強いお言葉で卒業生達を激励いただいた。
今後、更に卒業生会の輪が更に広がっていくよう努力したい。
（卒業生会事務局・竹内康貴）

第110回 卒業証書授与式

井上美代教諭が
鳥根県スポーツ功労者賞受賞

去る2月26日（火）、鳥根県スポーツ功労者として、井上美代教諭が表彰された。この賞は、全国規模のスポーツ競技会で優秀な成績を収めた選手等に授与される。今回は第59回都道府県対抗なぎなた大会において、優勝した功績が認められこの受賞となった。

第60回 全商情報処理検定合格者

時 1月20日

（3級合格者）

小川 穰	(21出三)	山下達葵	(21出三)
高橋 優希	(21出三)	布野 隆省	(21出三)
伊原 空我	(22出三)	武部 駿	(22出三)
小川 歩人	(22出三)	勝部 英寿	(22出三)
中山 智也	(22出三)	原 英寿	(22出三)
福田 風馬	(22出三)	山本 駿介	(22出三)
吾郷 眞業	(22出三)	門脇 美羽	(22出三)
佐藤 瑞希	(22出三)	柘植 未玖蘭	(22出三)
西岡 樹里	(22出三)	飯塚 朝陽	(22出三)
足立 圭佑	(23出三)	勝部 優仁	(23出三)
井上 友希	(23出三)	岸本 都和	(23出三)
川村 健斗	(23出三)	本田 敦也	(23出三)
中村 昭紀	(23出三)	佐藤 千佳	(23出三)
松田 弘樹	(23出三)	永戸 楓	(23出三)
出羽 七海	(23出三)	山根 千尋	(23出三)
山根 千尋	(23出三)		

ご案内

音楽コース クラスコンサート

本年度も音楽コース1・2年生によるクラスコンサートを左記の通り開催します。この演奏会は、生徒達が1年間の学習成果を披露する場です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

日 時 3月17日（日）
12時30分開場 13時開演
場 所 出雲北陵高等学校
中高棟内 北陵ホール

第17回 出雲北陵高等学校 校進級展

日 時 3月23日（土） 9時～17時
3月24日（日） 9時～16時
場 所 出雲文化伝承館 緑結び交流館
（出雲市浜町520）



入場料…無料
多数のご来場をお待ちしています。

第二十一回 中学校卒業証書授与式

時 3月11日 本校黎明館

いつまでも仲良く



副校長
高橋 豊

皆さん、ご卒業おめでとうござい
ます。

40名の同級生と、いつまでも仲良
くやってください。決意と期待を持
って、母校の出雲北陵中学校に入
学した皆さん、知らない同志達と仲良
くなったことが中学での一番の財産
だと思います。縁で結ばれた同級生と
育んだ、かけがえのない絆をいつま
でもいつまでも大切にしてください。

私は2年間でしたが、みんなと話
したり、体育の授業をしながら、本
当にかわいく大好きになりました。
また、男女間も仲良く、中学生らし
い素直さが素敵でした。

それぞれが自ら選択した高校へ行
っても、自信を持ってやってくださ
い。自信がない時は、これは修行だ
と思つてやることです。「万事勉強」
です。人生に訪れる喜怒哀楽すべて
が人を成長させる修行なのです。だ
からこそ、転んでも転んでも立ち上
がること。かっこついたり天狗には
決してならないことです。

最後に、校訓にある「やさしく、
つよい人になる」が人生テーマと思
います。

贈る言葉



三年一組担任
三島圭一朗

ご卒業おめでとうございます。1
年間という短い期間でしたが、担任
をさせてもらえたことに感謝してい
ます。なかなかうまくいかないこと
も多かったのですが、皆さんにはご迷惑
をおかけしました。たくさん悩んだ
りしたと思いますが、そんな中でも
前向きに頑張る姿に励まされながら
1年間やってこられたような気がし
ています。

皆さんは9年間の義務教育が終わ
り、大きな節目を迎えました。出雲
北陵中学校で得たかけがえのない経
験を今後の人生で生かしてください。
そのためには、今の自分を受け入れ、
しっかりと向き合うことが大切です。
これから先に待ち構えていることは
さらに厳しい世界かもしれませんが、
現状に満足することなく、いろいろ
なことに挑戦する気持ちを持つと良
いと思います。どんな時も前向きに、
自分らしく頑張ってください。皆さ
んのご活躍を心から祈っています。



「ギフト」



三年二組担任
相場 翔太

ご卒業おめでとうございます。
毎朝、「待つ人の像」とすれ違い、自分の教室へ向かい、級友と苦楽をともにしてきたこの3年間は皆さんにとってどのようなものだったでしょうか？

私自身この3年間で振り返ったとき、真つ先に思い浮かんだ言葉は「ありがとう」でした。挫折そうなる時、逃げ出したくなる時、常に私を支えてくれたのは皆さんの存在でした。勉強に部活動、その他にも習い事・ただでさえ忙しい生活を送る中、時にイヤな思いをすることもあったと思います。しかし、どんな状況でも皆さんは逃げることなく何事にも正面から立ち向かっていました。そんな姿に私自身が勇氣と元氣をもらっていました。

皆さんが私にくれたように、人は誰かに何かを与えながら生きていくものなのかなと思います。人から与えられたものには「感謝」を持ち、与えられた分だけ、また人に与えてください。そうすることで、きっと豊かな人生を送ることが出来るはずです。私も皆さんから与えられた分、誰かに何かを与えられる人になれるよう努力していきたいと思います。皆さんのこれからの人生が幸せで豊かなものになることを心から祈っています。

ご卒業おめでとうございます。

★卒業記念品★

ワイヤレスマイク付き
拡声器スピーカー一台

中学校卒業生表彰者

日本私立中学高等学校連合会会長賞

本田真央(中3 神原)

島根県中学校体育連盟会長賞

原田哲多(中3 西) 卓球部

岡 日輪乃(中3 建) 女子バスケットボール部

中学校

プログラミング学習の開催

時 2月22日
於 中高棟ホール

去る2月、株式会社プロビズモの竹下由紀子様の協力を得て、2年生技術分野でプログラミング学習を行った。

前半はITの仕事やセキュリティ、IT業界の将来について講話を聞き、後半ではクイズ形式でプログラミングやネットモラルについて学習した。生徒達には日々のタブレットの使用も含め、情報社会で正しく生きて行くための知識を身につけて欲しい。



平成30年度

「総合的な学習の時間」発表会

時 2月20日

総合的な学習の時間では、「ふるさと島根から世界へ」人・自然・文化」という主題のもと、各学年がテーマに添って活動し、まとめたものを発表しました。

中学1年

「ふるさと学習」

テーマを「国宝松江城を中心としたふるさと島根の歴史巡り」として、昨年11月に松江城やその他の史跡、小泉八雲記念館などを訪れ、それぞれの歴史について調べました。その結果について4班に分かれ、「ふるさと新聞」を作成したり、タブレットを活用して発表しました。改めて島根の歴史や文化に触れ、生徒達はふるさとへの愛着が一層深まりました。



中学2年

「進路学習」

テーマを「職場体験学習を通して」と設定し、2年生34名は昨年11月6・7日の二日間、出雲市内17の事業所に分かれ職場体験を実施しました。



この体験は社会人としてのルールを学ぶとともに、職業についての理解を深め、将来の進路について考えることを目的としています。生徒達はこの体験を通して、感じたことをまとめて発表しました。今後の進路選択に生かして欲しいと思います。

中学3年

「国際理解学習」

テーマを「オーストラリア語学研修旅行を通して」と設定し、3年生40名は昨年11月に実施した語学研修旅行について発表しました。今年度から研修校がクイーンズランド州ゴールドコーストにあるリビングストーン・クリスチヤンカレッジ校に変わり、研修内容も一新しました。

生徒達はいくつかのグループに分かれ、オーストラリアについて事前に調べたこと、研修校での授業参加の様子、ホストファミリーと楽しく過ごしたホームステイ先の様子などを写真や資料を使って発表するとともに、オーストラリアで披露したダンスも動画で紹介しました。笑顔あふれる生徒達の姿が見られ、いかに有意義な研修であったかがうかがえました。



この研修を通して、生徒達は英語でコミュニケーションを取ることを楽しさや難しさ、ホストファミリーとして自分達を受け入れてくれたオーストラリアの人達の優しさ、お互いに助け合うことの大切さなどを感じることができました。

どの学年の発表もすばらしく、発表の仕方でも新聞を作成したり、タブレットや電子黒板を使ったり、大変工夫されていました。また、多くの保護者の方にご参加いただき、良い保護者研修の場ともなりました。有難うございました。

作品と研究

「嘘をつく人と嘘を疑う人」というテーマで創作された作品を紹介しましょう。

Birthday

小原遥夏 (3・6後)

とある村に、パトリックという男の子とリリーという女の子がいました。とても仲良しの二人はいつも一緒に遊んでいました。パトリックはいつも、リリーのしたいことや欲しいものを当てられずにいました。

「やっぱりパトリックはいつもリリーが出す問題を間違える。こんなと一緒にいるのにパトリックはちっともリリーのことをわかってないわ!」

「わかってるさ」パトリックはムツとして言いました。

「じゃあパトリック、今度リリーの誕生日でしょ?その時にリリーが一番欲しいと思ってるものをプレゼントして。一番よ。よく考えて」

リリーの誕生日は三日後でした。パトリックは一生懸命考えました。かわいいお洋服やアクセサリー。きれいなガラス細工。珍しいお花なんかはどうだろうか、とたくさん考えました。けれど、どれもピンとくるものはありません。

リリーの誕生日が次の日に迫っていました。パトリックは隣の村に行

きたいと思い、黒い森に入りました。隣の村には黒い森を越えないと行くことができないのです。パトリックは迷いながらも黒い森の出口を見つけてきました。もうすぐこの森を出ることができると、そう思った時でした。

「時間切れだ、パトリック。もう日は沈んだ。おまえはもう帰れない」

黒い森は日が沈む前に出ないと帰ることができなくなってしまう森なのでした。パトリックはそれを知りませんでした。

「そんな…。僕はリリーにプレゼントを渡さないといけないのに…」

パトリックは絶望しました。リリーにプレゼントを渡すことはおろかもう会えなくなってしまうのです。「せめて明日だけでも…」パトリックがそうつぶやいた時です。

「仕方がない。年に一度、愛しい子へプレゼントを渡す機会を与えよう。このマントを着れば黒い森の外に出られるんだ。けれどお気をつけよパトリック。彼女には本当の姿を隠すんだ。もし彼女におまえだと知られてしまったら、おまえの命は消えてしまう」

パトリックはマントを着て隣の町まで行きました。そして黒い森を抜けて、ちょうど日が沈んだ頃にリリーの家のポストにプレゼントを入れました。それがリリーの一番欲しいもののなかもわからないまま、次の年の誕生日となってしまいました。パトリックは毎年毎年プレゼントを渡しに行きました。

ある年のことでした。パトリック

はリリーの家のポストにプレゼントを入れて帰ろうとすると、家の中からリリーが出てきました。パトリックはリリーに会えたという嬉しさと正体がばれてしまうという焦りで胸がいっぱいになりました。

「ねえ、あなた。パトリックという男の子を知らない?」リリーがそう言ったのでパトリックはほっとしました。

「知らないよ」パトリックは初めてリリーに嘘をつきました。

「本当に?あなた何だかパトリックに似ているから知っていると聞いたんだけど。本当に知らない?」リリーはそう言って何度もパトリックを疑いました。パトリックは必死に嘘を言ってリリーを諦めさせました。

次の年もパトリックはリリーに聞かれました。

「パトリックという男の子を知らない?」

パトリックは毎年毎年リリーに嘘をつきました。その度にリリーはパトリックを疑いました。これ以上リリーと会うわけにはいかないと考えたパトリックは、この年、真夜中に出かけることにしました。そうすればリリーに見つからずに済むと思ったのです。この年は、花の香りの香水をプレゼントに選びました。ポストに入れ、帰ろうとした時です。ガチャッとドアが開き、パジャマ姿のリリーが出てきました。

「パトリック!」

リリーはパトリックという男の子を知らないかとは聞かずに、もう彼

のことをパトリックだと言いました。「パトリックなんでしょ?」

パトリックは首を横に振りしました。

「パトリックなんでしょ?だって、だって、パトリックはリリーの一番欲しいものをわかってない。いつも違うものをプレゼントしてくれる」

リリーはパトリックに駆け寄り、彼のコートを脱がせました。

「リリーが一番欲しいのは、あなたよ。パトリック」

リリーはパトリックの唇にキスをしました。

パトリックは泣いていました。命が消えてしまうことの悲しさにではなく、やっとリリーに嘘をつかなくて済むようになった嬉しさと泣いたのです。

パトリックは強くリリーを抱きしめ、黒い森へと消えて行きました。そしてもう二度と姿を現すことはありませんでした。

今月
1枚

「四季を切り取る」(切り絵)

宮廻 一葉
(中3・2 高松)

